

# Intel<sup>®</sup> PRO/Wireless 2011 LAN ユーティリティ

ユーザ・ガイド

2000 年 12 月

---

# 著作権

Copyright © 2000, Intel Corporation. 無断転載を禁ず。

Intel Corporation, 5200 N.E. Elam Young Parkway, Hillsboro, OR 97124-6497

本マニュアルおよびその中に記述されているソフトウェアは、ライセンス契約に従って提供されるものであり、ライセンス契約の条件に従わない限り、使用することも複製することも許されません。本マニュアルに記載されている情報は、情報提示のみを目的に提供されます。内容は予告なく変更されることがあります。またインテルは、本マニュアルの内容について一切責任を負いません。インテルは、本マニュアル内または本マニュアルに関連するソフトウェア内に誤りや不正確な点があっても、その責任、責務を一切負わないものとします。

ライセンス契約により許可されている場合を除き、インテルの書面による明示的な同意のない限りは、本マニュアルのいかなる部分についても、複写、検索システムへの格納や形態・手段のいかんにかかわらず送信したりすることはできません。

\*ほかの製品名および企業名は、ほかの企業の商標である場合があります。本マニュアルでそれらの名前を使用しているのは、説明に必要でありかつ所有者の利益を確保する目的のためだけであり、権利を侵害しようとする意図はありません。

# 特許

本製品には、次に示した米国および諸外国の特許が1件以上適用されています。

## 【特許番号】

4,387,297; 4,460,120; 4,496,831; 4,593,186; 4,603,262; 4,607,156; 4,652,750; 4,673,805; 4,736,095; 4,758,717; 4,816,660; 4,845,350; 4,896,026; 4,897,532; 4,923,281; 4,933,538; 4,992,717; 5,015,833; 5,017,765; 5,021,641; 5,029,183; 5,047,617; 5,103,461; 5,113,445; 5,130,520; 5,140,144; 5,142,550; 5,149,950; 5,157,687; 5,168,148; 5,168,149; 5,180,904; 5,216,232; 5,229,591; 5,230,088; 5,235,167; 5,243,655; 5,247,162; 5,250,791; 5,250,792; 5,260,553; 5,262,627; 5,262,628; 5,266,787; 5,278,398; 5,280,162; 5,280,163; 5,280,164; 5,280,498; 5,304,786; 5,304,788; 5,306,900; 5,321,246; 5,324,924; 5,337,361; 5,367,151; 5,373,148; 5,378,882; 5,396,053; 5,396,055; 5,399,846; 5,408,081; 5,410,139; 5,410,140; 5,412,198; 5,418,812; 5,420,411; 5,436,440; 5,444,231; 5,449,891; 5,449,893; 5,468,949; 5,471,042; 5,478,998; 5,479,000; 5,479,002; 5,479,441; 5,504,322; 5,519,577; 5,528,621; 5,532,469; 5,543,610; 5,545,889; 5,552,592; 5,557,093; 5,578,810; 5,581,070; 5,589,679; 5,589,680; 5,608,202; 5,612,531; 5,619,028; 5,627,359; 5,637,852; 5,664,229; 5,668,803; 5,675,139; 5,693,929; 5,698,835; 5,705,800; 5,714,746; 5,723,851; 5,734,152; 5,734,153; 5,742,043; 5,745,794; 5,754,587; 5,762,516; 5,763,863; 5,767,500; 5,789,728; 5,789,731; 5,808,287; 5,811,785; 5,811,787; 5,815,811; 5,821,519; 5,821,520; 5,823,812; 5,828,050; 5,850,078; 5,861,615; 5,874,720; 5,875,415; 5,900,617; 5,902,989; 5,907,146; 5,912,450; 5,914,478; 5,917,173; 5,920,059; 5,923,025; 5,929,420; 5,945,658; 5,945,659; 5,946,194; 5,959,285; 6,002,918; D305,885; D341,584; D344,501; D359,483; D362,453; D363,700; D363,918; D370,478; D383,124; D391,250; D405,077; D406,581; D414,171; D414,172; D419,548

【発明番号】 55,358; 62,539; 69,060; 69,187 (Taiwan); No. 1,601,796; 1,907,875; 1,955,269 (Japan); European Patent 367,299; 414,281; 367,300; 367,298; UK 2,072,832; France 81/03938; Italy 1,138,713

A28557J01  
改訂 A

# このマニュアルについて

---

## 関連資料

本リファレンス・ガイドの関連資料を次に示します。

資料番号	資料名
A28551J02	Intel <sup>®</sup> PRO/Wireless 2011 LAN アクセス・ポイント製品リファレンス・ガイド
A28555J02	Intel <sup>®</sup> PRO/Wireless 2011 LAN PC/PCI カード製品リファレンス・ガイド

## マニュアル内の表記

キー操作の表記：

ENTER	1 個のキーを示します。
FUNC、CTRL、C	キーを押す順番を示します。順番に各キーを押して離します。
Press A+B	複数のキーを同時に押すことを示します。
Hold A+B	別の機能が処理されているあいだ、または別の機能が実行されるまで、複数のキーを押し下げたままにすることを示します。別のキー操作と組み合わせて使います。

## 書体の使用規則

< 山括弧 >	構文に必須のパラメータを示します。
[ 角括弧 ]	コマンド・ラインの場合は、利用可能なパラメータを示します。設定ファイル内では、複数のオプションの区切文字としての役割を担います。
GUI Screen text	GUI を利用したアプリケーションのコントロール名を示します。
イタリック体 ' 一重引用符 '	初出用語、書籍名、変数、メニュー名は、イタリック体で表記します パラメータの設定値そのものを示します。
Screen	画面に表示される文字を示します。ユーザの入力する文字も示します。 スクリーンとは、データの表示されるハードウェア装置のことです。 ディスプレイとは、1 つのスクリーン上に並んだデータのことです。
Terminal	端末スクリーンに表示される文字列を示します。

---

[URL](#)

Uniform Resource Locator を示します。

本マニュアルでは、次のような各種アイコンを使って、さまざまな条件や情報の種類を区分しています。



ヒントや一定の必要条件を示します。

---



---

装置の損傷やデータの損失の発生しかねない条件を示します。

---



---

インテルで訓練を受けた担当者以外が調整または実行すると危険な状態になりかねない条件や手順を示します。

---

# 目次

---

第 1 章	Intel® PRO/Wireless 2011 LAN ユーティリティのインストール .....	1
第 2 章	WLAN Monitor .....	3
	2.1 WLAN Monitor のタスク・トレイ・アイコン .....	4
	2.2 WLAN Monitor プロパティ・ページ .....	4
	2.2.1 [General] プロパティ .....	5
	2.2.2 Power Mode .....	7
	2.2.3 Info .....	8
	2.2.4 Options .....	10
	2.2.5 Transmission .....	12
	2.2.6 Signal .....	13
第 3 章	WLAN Info .....	15
	3.1 WLAN Info のアイコン .....	15
	3.2 WLAN Info プロパティ・ページ .....	16
	3.2.1 Adapter .....	16
	3.2.2 Mobile Unit .....	17
	3.2.3 Power Management .....	19
	3.2.4 Known Access Points または Known Peers .....	20
	3.2.5 Association .....	23
	3.2.6 Transmit and Receive .....	24
	3.2.7 Adapter Diagnostics .....	26
	3.2.8 Logging .....	27
第 4 章	WLAN Update .....	29
第 5 章	Access Point Discovery (AP Discovery) .....	33
	5.1 アクセス・ポイントの検索 .....	34
	5.1.1 アドバンスド検索の実行 .....	35
	5.2 アクセス・ポイントを選択した設定 .....	38

---

	5.2.1	Direct Configuration .....	39
	5.2.2	Internet Configuration .....	42
	5.2.3	Telnet Configuration .....	43
	5.2.4	アクセス・ポイントの点滅 .....	43
第 6 章		My Wireless LAN Places .....	45
	6.1	新しいプロファイルの作成 .....	47
	6.2	既存のプロファイルでの作業 .....	54
	6.2.1	既存のプロファイルの編集 .....	54
	6.2.2	既存のプロファイルの削除または名前の変更 .....	55
付録 A		カスタマ・サポート .....	A-1
	A.1	インテル自動サポート・システム .....	A-1
	A.2	ソフトウェア使用許諾契約 .....	A-2
	A.3	制限付きハードウェア保証 .....	A-4
付録 B		規制の遵守 .....	B-1

# Intel<sup>®</sup> PRO/Wireless 2011 LAN ユーティリティのインストール

---

Intel Wireless LAN ユーティリティは、Intel<sup>®</sup> PRO/Wireless 2011 LAN で動作するアダプタをサポートしています。Wireless LAN ユーティリティ (WLAN Monitor、WLAN Info、WLAN Update、AP Discovery および WLAN Places) は、インストール用の CD-ROM からツール・スイートとしてまとめてインストールします。

---



Intel<sup>®</sup> PRO/Wireless 2011 LAN ユーティリティは、Windows 95、Windows 98、Windows NT 4.0 および Windows 2000 をサポートします。

---

WLAN Monitor ユーティリティを使用して、アダプタの信号品質および電力管理ステータスを監視できます。WLAN Monitor は、システムがブートするたびに、システム・タスク・トレイ上で自動的に起動します。

WLAN Info ユーティリティを使用して、リポートせずにアダプタの詳細な診断情報や統計情報を入手可能です。

WLAN Update ユーティリティを使用して、WLAN アダプタのファームウェアをアップグレードできます。

*Access Point Discovery* (AP Discovery) ユーティリティを使用して、ネットワーク内の隣接するアクセス・ポイントの属性を確認できます。

*My Wireless LAN Places* (My WLAN Places) ユーティリティを使用して、WLAN アダプタのネットワーク・アドレス情報およびデバイス情報のプロファイルの作成ができます。このプロファイルは、選択された WLAN アダプタにシステム管理者自身でダウンロードできます。

CD-ROM から Intel<sup>®</sup> PRO/Wireless 2011 LAN ユーティリティをインストールする方法

1. インストール用の CD-ROM をコンピュータの CD ドライブに挿入します。

2. [Start] をクリックし、[Run] を選択します。
3. パスとして x:\pluspack\setup.exe と入力してください。  
(x は CD ドライブに割り当てられた文字)
4. [OK] をクリックしてください。
5. Windows のオペレーティング・システムが表示する指示に従ってインストールを完了してください。
6. Windows のオペレーティング・システムによって指示が出されたらコンピュータを再起動してください。  
PC Card がインストールされている場合、WLAN Monitor は、システムがリブートする際にシステム・タスク・トレイ上に表示されます。



## WLAN Monitor

---

WLAN Monitor は、Intel® PRO/Wireless 2011 LAN アダプタの信号品質、送信品質および電力管理ステータスを監視します。WLAN Monitor には、アダプタのステータスをチェックする 2 つの異なるツールがあります。タスクバーのトレイ上のアイコンは、信号強度およびサービス品質に関する情報をリアルタイムで伝えます。WLAN Monitor のプロパティ・ページには、ドライバ、ファームウェアのリビジョン・データ、電力管理情報、およびアダプタの送信品質と信号品質の統計情報が表示されます。

WLAN Monitor は、システム・ブート時に自動的に起動し、タスク・トレイに表示されます。

WLAN Monitor の手動による起動方法：

1. [スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] を選択します。
2. [Intel Wireless LAN] をクリックし、[Wireless LAN Utilities] を選択します。
3. [WLAN Monitor] をクリックしてユーティリティを実行してください。

WLAN Monitor が、システム・タスク・トレイに表示されます。

タスク・トレイにある WLAN Monitor アイコンを右クリックすると WLAN Monitor のメニューが表示されます。下記のメニュー項目の中から 1 つを選択してください。

- Intel® PRO/Wireless 2011 LAN Adapter Status
- About Adapter Status
- Exit Intel® PRO/Wireless 2011 LAN Adapter Status

[Exit Intel® PRO/Wireless 2011 LAN Adapter Status] を選択すると、WLAN Monitor はタスク・トレイに表示されなくなります。



WLAN Monitor を実行せず、タスク・トレイに表示しないためには、Shift キーを押したままコンピュータをブートします。

---

## 2.1 WLAN Monitor のタスク・トレイ・アイコン

WLAN Monitor のタスク・トレイ・アイコンは、アダプタの信号強度を示します。

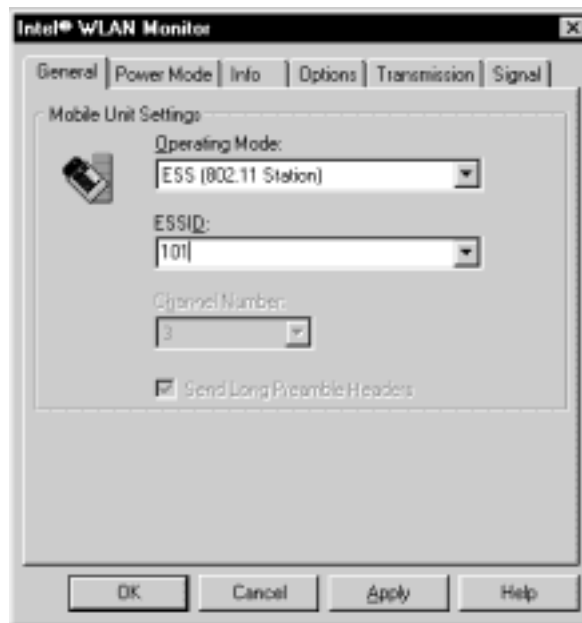
アイコン	ステータス
	優れた信号強度 ( 緑色のバー )
	非常に良い信号強度
	良い信号強度
	まずまずの信号強度
	低い信号強度
	ネットワークの範囲外
	アダプタが確認できません

## 2.2 WLAN Monitor プロパティ・ページ

WLAN Monitor プロパティ・ページには、ワイヤレス・ネットワークとサービス品質に関する情報があります。

## 2.2.1 [General] プロパティ

[General] プロパティ・ページを使用して、アダプタに使用する動作モードおよび ESSID を設定できます。



WLAN Monitor でアダプタに設定された動作モードおよび ESSID は、NCPA と WLAN Info で設定された動作モードおよび ESSID に優先します。

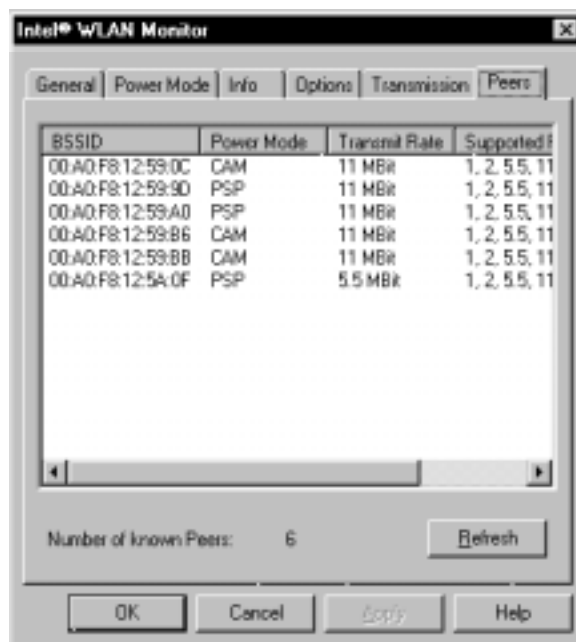
動作モード・プルダウン・メニューを使用して、以下に示すアダプタの動作モードから 1 つを選択します。

ESS (802.11 Station) : アダプタは、アクセス・ポイントでデータを送受信することができます。アダプタが ESS モードの場合は、[Channel Number] フィールドと [Send Long Preamble Headers] チェックボックスは無効となります。ESS は、MU のデフォルト・モードです。

Pseudo IBSS (Proprietary Ad Hoc) : MU のスループット・テストにおいて IBSS ネットワークで最大スループットが要求される場合に選択します。Pseudo IBSS は、PSP MU をサポートしておらず、ビーコンや認証を使用しません。ネットワークに対してチャンネルを入力するには、[Channel Number] フィールドを使用します。各 MU は、同じチャンネルでなければなりません。Pseudo IBSS は、通常の動作モードとしては、または MU がバッテリーで動作する場合には、おすすめできません。Pseudo IBSS を選択した場合、[Signal] プロパティ・ページまたは [Peers] プロパティ・ページは使用できません。

IBSS (802.11 Ad Hoc) : MU は、アダプタがアクセス・ポイントを経由せずピア・ツー・ピアで通信する固有のローカル・ネットワークを形成することができます。必要に応じて IBSS を使用して、所定のセル内にネットワークを作成することができます。IBSS では、MU がビーコンの生成とブロードキャスト処理を交互に行います。IBSS ネットワークを起動させるアダプタ (ビーコンを送信する最初のステーション) によって、[Channel Number] フィールドのチャンネルが設定されます。

IBSS (802.11 Ad Hoc) を選択すると、WLAN Monitor の [Signal] プロパティ・ページが、[Peers] プロパティ・ページに変わります。[Peers] を選択すると、ネットワーク内の他の MU の BSSID または Mac アドレス、動作モード (PSP または CAM)、送信レート、サポートされているデータの転送レート、および MU が IBSS ネットワーク外にあった時間の長さを確認できます。[Refresh] をクリックすると、[Peers] プロパティ・ページを更新し、最新の IBSS ネットワークのパフォーマンスと MU のメンバシップ・データにします。



[802.11 ESSID] フィールドでアダプタの ESSID を入力します。ESSID とは、802.11 Extended Service Set Identifier のことです。ESSID は、32 文字 (最大) の文字列で構成され、ワイヤレス・ローカル・エリア・ネットワークを識別します。アダプタがアクセス・ポイントと通信するためには、アダプタに割り当てられた ESSID がアクセス・ポイントの ESSID と一致している必要があります。

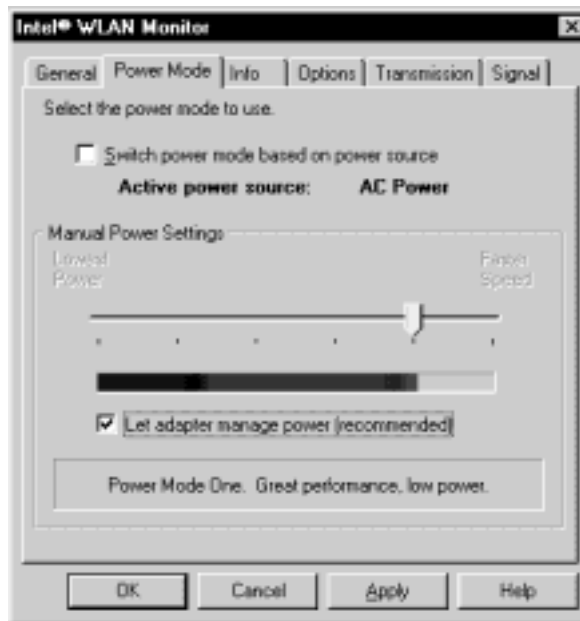
## 2.2.2 Power Mode

[Power Mode] プロパティ・ページを使用して、アダプタの電力設定を制御することができます。Intel® PRO/Wireless 2011 LAN アダプタには、Continuous Access Mode (CAM) と Power Save Poll モード (PSP) という 2 つの消費電力モードがあります。CAM を選択すると、最良のパフォーマンスが得られますが、最大の電力を消費します。CAM は、システムが AC 電源で作動する場合の優先モードとなります。

目指すアダプタの動作にあうように、PSP パフォーマンス指数 (1 から 5 まで) を選択するためには、[Let adapter manage power] チェック・ボックスのチェック・マークを外し、[Manual Power Settings] フィールドのスライド・スケールを使用します。PSP を選択すると、CAM と比較して、かなりの量の電力が節約されます。PSP は、システムがバッテリーで作動する場合の優先モードとなります。



PCI アダプタは、PSP モードをサポートしません。PCI アダプタの使用時は、PSP オプションに対する制御は無効になります。[Switch Power mode] 機能は、Windows NT 4.0 では使用できません。



### 2.2.3 Info

[Info] プロパティ・ページを使用して、アダプタのバージョン情報および動作モード情報を確認できます。

[Version Information] フィールドを使用すると、アダプタのドライバ・バージョン、アダプタのファームウェア・バージョン、サポートされているデータの転送レート、アダプタ・タイプ、およびファームウェア・タイプを確認できます。



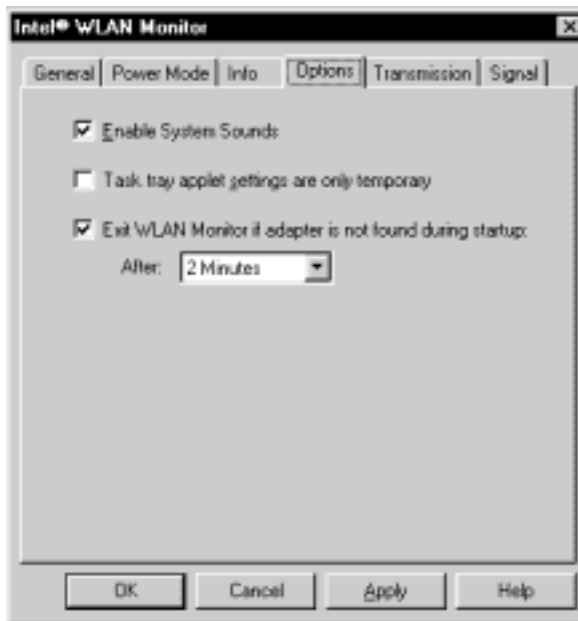
[Operating Mode] フィールドを使用すると、アダプタの動作地域、動作モード (ESS、IBSS、または Pseudo IBSS)、暗号化モード、および My Wireless LAN Places ユーティリティを使用して作成したアダプタのプロファイル名を確認できます。



WLAN Monitor で設定されたアダプタの動作モードは、NCPA と WLAN Info で設定された動作モードに優先します。

## 2.2.4 Options

[Options] プロパティ・ページで、WLAN Monitor のシステム・サウンドを有効または無効のどちらかにします。WLAN Monitor は、Windows のオペレーティング・システムが提供する標準ウェブ・テーブル・サウンドを使用します。WLAN Monitor は、ホスト・コンピュータのアクセス・ポイント間でのローミングを検出するたびに、電子音を発します。別のアクセス・ポイントへの MU のローミングをユーザが望まない場合は、この音が重要になります。WLAN Monitor は、ホスト・コンピュータへの ping を完了するたびに、電子音を発します。



ユーザは、Windows の [コントロール・パネル] から [サウンド] アプレットを使用して、WLAN Monitor のウェブ・ファイルの値を変更できます。WLAN Monitor に関する 2 つのエントリが存在します。

- [Intel WLAN Monitor Ping]
- [Intel WLAN Monitor Roam]



WLAN Monitor で電子音を使用するためには、[ サウンド ] ウィンドウでウェーブ・ファイルを選択します。WLAN Monitor に添付の標準ウェーブ・ファイルのフォーマットは以下のとおりです。

SSxxxxn.wav

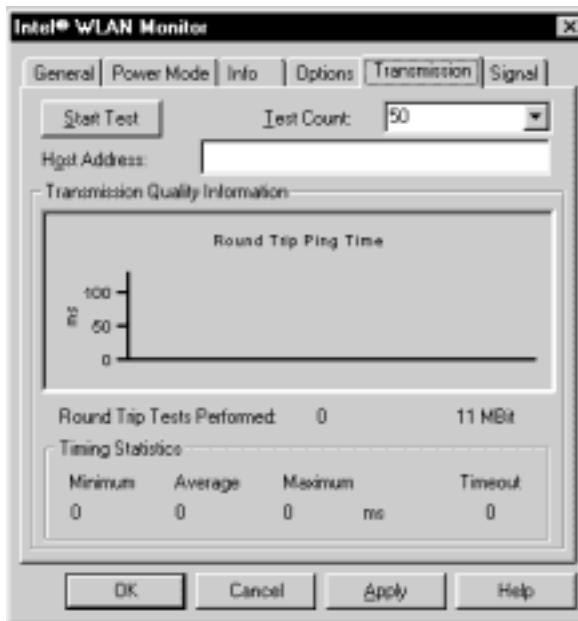
ここで、xxxx は ping または roam を、n はファイルの数値 ID を表しています。

Windows のレジストリに保存された値は、コンピュータの起動時にアダプタによって使用されます。単に WLAN Monitor の一時的な値を入力するには、[Options] プロパティ・ページから [Task tray applet settings are only temporary] チェック・ボックスを選択します。一時的な値は、WLAN Monitor の各プロパティ・ページに適用され、システムが再起動しその値が変更されるまで保持されます。チェック・ボックスが選択されない場合は、入力された値はすべて、システムの再起動後も保存されて使用されません。

[Exit task tray applet if adapter is not found during startup] チェック・ボックスを選択し [After] プルダウン・メニューを使用して、アダプタがネットワーク上に検索されず WLAN Monitor を終了するまでの待ち時間 (1 ~ 5 分まで) を指定できます。

## 2.2.5 Transmission

[Transmission] プロパティ・ページを使用してデータ送信テストを実行し、テストのグラフをリアルタイムに表示させることができます。送信品質テストもまた送信品質をテキスト・ベースで説明し表示します。送信品質テストは、ICMP ping を使用し、MU とアクセス・ポイント間のデータ送信をテストします。この送信品質についての表示が重要になるのは、MU の送信能力を最適化するために、MU を別のアクセス・ポイントに関連付けるべきかどうか、また、そのアクセス・ポイントと通信するための MU の位置が適切かどうかを確かめる場合です。



Note

送信品質テストには、TCP/IP プロトコルが必要です。

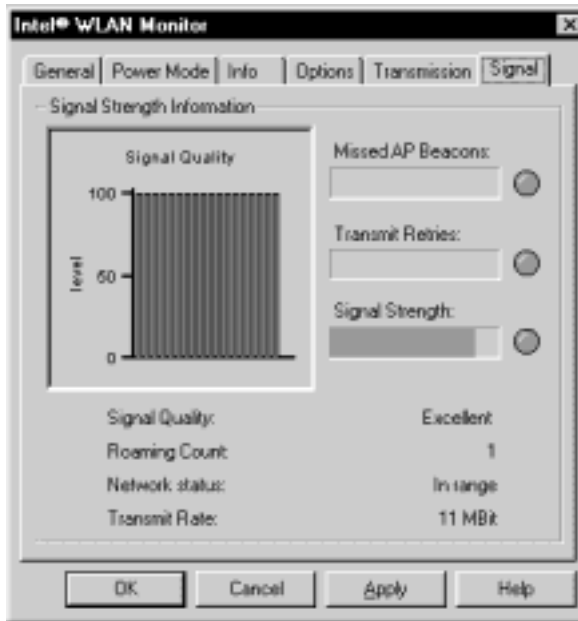
## 2.2.6 Signal

[Signal] プロパティ・ページを使用して、アダプタが受信した信号品質のグラフをリアルタイムに表示させることができます。信号品質の説明もまた表示されます。[Signal] プロパティ・ページは、MU からアクセス・ポイントに送信される信号の品質、および信号強度を高めるため別のアクセス・ポイントへの関連付けが必要かどうかをユーザが確かめる際に利用できます。「良い」以下の信号品質に関する表示はすべて、別のアクセス・ポイントと関連付けるべきものとなります。



[General] プロパティ・ページで動作モードに IBSS または Pseudo IBSS を選択した場合、[Signal] プロパティ・ページは、WLAN Monitor では表示されません。

[Missed AP Beacons] グラフを使用して、受信側の MU が受信できなかったビーコン（ネットワークの同期を保つためにアクセス・ポイントによってブロードキャストされる一様なシステム・パケット）の量を確認できます。受信できなかったビーコンが少ないほど、信号は強くなります。



[Transmit Retries] グラフを使用して、MU によって再送されたデータ・パケットの数を確認できます。再送の回数が少ないほど、信号は強くなります。

[Signal] グラフを使用して、アクセス・ポイントから受信側の MU に送信された信号の RSSI (Relative Signal Strength Indicator) を確認することができます。このインジケータを使用すると、信号が現在のアクセス・ポイントへの関連付けを維持できるほど強いかどうか、または別のアクセス・ポイントに関連付けを行えば、信号強度を高めることになるのかどうかを確認できます。

WLAN Info ユーティリティを使用して、Intel® PRO/Wireless 2011 LAN アダプタを確認し設定を行なうことができます。WLAN Info では、アダプタのステータス、モバイル・ユニット (MU) の設定、電力管理設定、アダプタの診断情報、アダプタのイベント・ロギング・オプション、および MU の送信 / 受信統計情報を提供します。

ユーザは、WLAN Info ウィンドウの左側にあるツリー状にリストされた項目の中からプロパティ・ページを選択します。アダプタの信号品質が、各プロパティ・ページの左下部に表示されます。この信号品質を表す機能は、WLAN Monitor で表示されるものと一致します。

---



コンピュータのモニタが、640 x 480 に設定されている場合、WLAN Info の画面は、適切に表示されません。解像度の最適化のためには、コンピュータのモニタを 800 x 600 に設定してください。

---

WLAN Info の手動による起動方法

1. [スタート] ボタンをクリックして [プログラム] を選択します。
2. [Intel Wireless LAN] をクリックして、[Wireless LAN Utilities] を選択します。
3. [WLAN Info] を選択してユーティリティを実行します。

## 3.1 WLAN Info のアイコン

WLAN Info のアイコンは、各プロパティ・ページの左下部に表示されます。WLAN Info のアイコンは、前の章で述べた WLAN Monitor のタスク・トレイ・アイコンと同一で、同じ機能を提供します。

## 3.2 WLAN Info プロパティ・ページ

WLAN Info プロパティ・ページでは、アダプタの設定や情報を表示させて設定を行なえます。

### 3.2.1 Adapter

[Adapter] プロパティ・ページを使用して、ドライバのソフトウェア情報とハードウェア情報を表示させることができます。[Adapter] ページは、読み取り専用でありユーザが設定できるフィールドはありません。

[Adapter Information] フィールドには、ドライバ・バージョン、アダプタのファームウェア・バージョンとファームウェア・タイプ、地域関連付けステータス、セルフ・テスト・ステータス、ランタイムおよび周波数が表示されます。

[Hardware Properties] フィールドには、IRQ 番号、メモリ・アドレス、I/O アドレス、ハードウェア・リビジョン、MAC アドレスおよびアダプタ・タイプが表示されます。

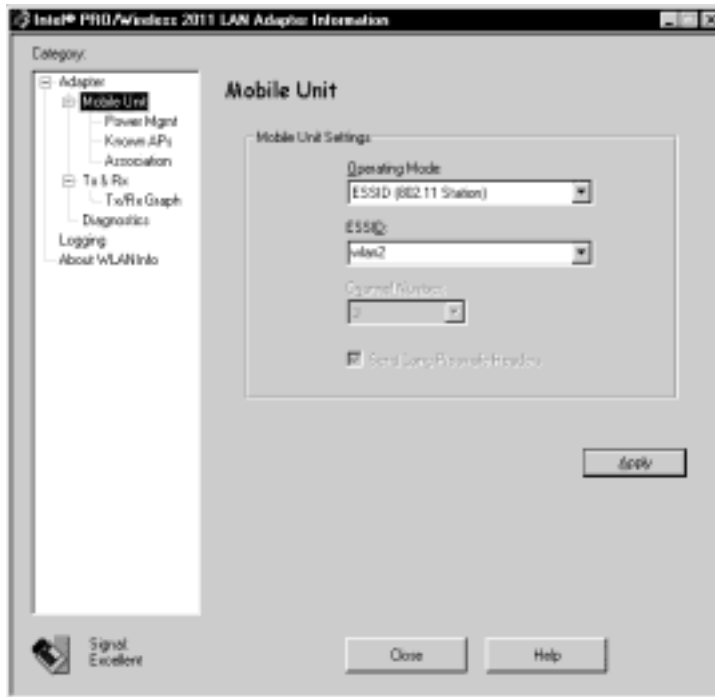


[Operating Mode] フィールドには、[Mobile Unit] ページで設定される動作モード (ESS、IBSS、または Pseudo IBSS)、My Wireless LAN Places ユーティリティを使用して設定された暗号化モードとプロファイル名、およびチャンネル番号が表示されます。

WLAN Monitor で設定された動作モードは、WLAN Info と NCPA で設定された動作モードに優先します。

### 3.2.2 Mobile Unit

[Mobile Unit] プロパティ・ページを使用して、アダプタの動作モードと ESSID を設定できます。



WLAN Monitor でアダプタに設定された動作モードおよび ESSID は、WLAN Info と NCPA で設定された動作モードおよび ESSID に優先します。

[Operating Mode] プルダウン・メニューを使用して、以下に示すアダプタの動作モードから 1 つを選択します。

ESS (802.11 Station) : アダプタは、アクセス・ポイントでデータを送受信できます。アダプタが ESS モードの場合は、[Channel Number] フィールドと [Send Long Preamble Headers] チェックボックスは無効となります。ESS は、MU のデフォルト・モードです。



Pseudo IBSS (Proprietary Ad Hoc) : MU のスループット・テストにおいて IBSS ネットワークで最大スループットが要求される場合に選択します。Pseudo IBSS は、PSP MU をサポートしておらず、ビーコンや認証を使用しません。[Channel Number] フィールドを使用して、ネットワークに対してチャンネルを入力できます。各 MU は、同じチャンネルである必要があります。Pseudo IBSS は、通常の動作モードとしては、または MU がバッテリーで動作する場合には、おすすりできません。

IBSS (802.11 Ad Hoc) : MU は、アダプタがアクセス・ポイントを経由せずピア・ツー・ピアで通信する固有のローカル・ネットワークを形成できます。必要に応じて IBSS を使用して、所定のセル内にネットワークを作成可能です。IBSS では、MU がビーコンの生成とブローブ応答処理を交互に行います。IBSS ネットワークを起動させるアダプタ (ビーコンを送信する最初のステーション) によって、[Channel Number] フィールドのチャンネルが設定されます。1 個の MU が各ビーコンを送信している場合、IBSS ネットワーク内に他の MU が存在せず、ピア・ツー・ピアで通信する少なくとも 1 つ以上の MU が必要です。

[802.11 ESSID] フィールドで ESSID を入力します。ESSID とは、802.11 Extended Service Set Identifier のことです。ESSID は、32 文字 (最大) の文字列で構成され、ワイヤレス・ローカル・エリア・ネットワークを識別します。アダプタがアクセス・ポイントと通信するためには、アダプタに割り当てられた ESSID がアクセス・ポイントの ESSID と一致する必要があります。

動作モードと ESSID をインプリメントするには、[Apply] をクリックします。

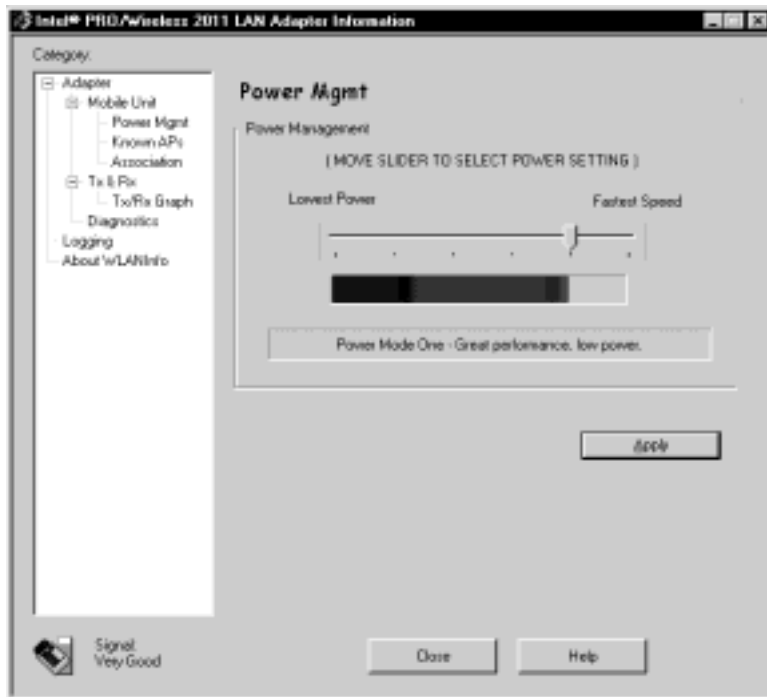
### 3.2.3 Power Management

[Power Management] プロパティ・ページを使用して、アダプタの消費電力設定を表示させ調整できます。ユーザはスライド・スケールを調整して、WLAN Info における PSP パフォーマンス指数 (1 から 5 まで) を制御します。スライド・スケールの下に表示される説明は、選択されたパフォーマンス電力レベルとその評価値です。高速のパフォーマンスを必要とするユーザは、その要求するレベルに合わせてスライド・スケールを調整することができます。



CAM は、バッテリーで動作するデバイスにはおすすりできません。

PSP モードには、CAM のパフォーマンスはありませんが、バッテリーの消費量を低減させます。選択された電力設定を実行するには、[Apply] をクリックします。



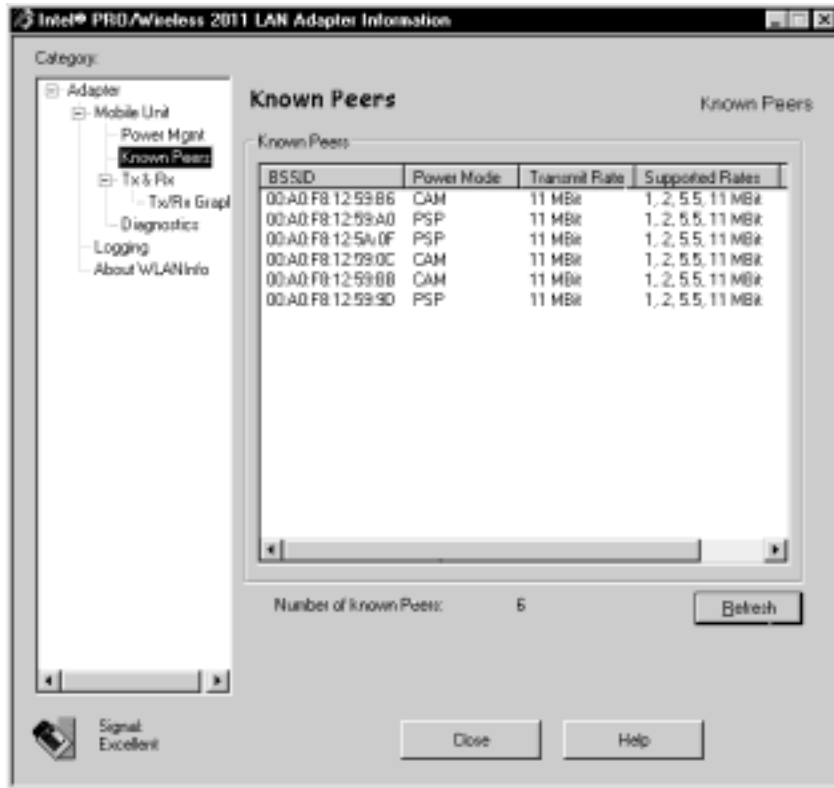
### 3.2.4 Known Access Points または Known Peers

[Known Access Points] プロパティ・ページを使用して、Intel® PRO/Wireless 2011 LAN 内のアダプタと同じ ESSID を持つアクセス・ポイントを確認することができます。使用可能な各アクセス・ポイントの BSSID、ダイレクト・シーケンス・チャンネル、およびタイプ / ステータスを確認します。

[Known Access Points] のリストを表示するには、[Refresh] をクリックします。[Known Access Points] プロパティ・ページは、読み取り専用でありユーザが設定できるデータ・フィールドはありません。



動作モードとして IBSS (802.11 Ad Hoc) が選択されている場合、[Known Access Points] プロパティ・ページは、[Known Peers] プロパティ・ページに変わります。



[Known Peers] プロパティ・ページを使用して、ネットワーク内の他の MU の BSSID または Mac アドレス、電力モード (PSP または CAM)、送信レート、および MU が IBSS ネットワーク外にあった時間の長さを確認できます。[Known Peers] プロパティ・ページを更新し、パフォーマンスとメンバーシップ・データを最新のものにするには、[Refresh] をクリックします。

### 3.2.5 Association

[Association] プロパティ・ページを使用して、アダプタの関連付け状態、アクセス・ポイントの関連付け統計情報、およびアクセス・ポイントのスキャン情報を表示させることができます。このページの値は、その都度、更新されます。統計カウンタをクリアし、新しいデータを再収集するには、[Reset Statistics] をクリックします。[Association] プロパティ・ページの情報は、読み取り専用でありユーザが設定できるデータ・フィールドはありません。



The screenshot shows the 'Intel PRO/Wireless 2011 LAN Adapter Information' window. The 'Association' tab is selected, displaying the following data:

Association Statistics	
Association:	In range
Number of Associations:	4
Access Point Count:	1
Number of Full Scans:	652
Number of Partial Scans:	6
Access Point BSSID:	00:40:F8:0B:72:32

Roaming Reasons	
Access Point did not Transmit:	0
Poor Receive or Transmit Quality:	0
Access Point RSSI too low:	0
Access Point Load Balancing:	0
Access Point dropped MU:	0
Power Mode change:	2

Miscellaneous Statistics	
Received Beacons:	14743
Percent Missed Beacons:	0
Percent Tx Errors:	0

At the bottom right of the window is a 'Reset Statistics' button. At the bottom left, there is a signal strength indicator showing 'Signal Excellent'.

### 3.2.6 Transmit and Receive

[Transmit and Receive] プロパティ・ページを選択して、指定されたパケットと指定のないパケットに関する統計情報、および送信と受信両方の総バイト数を表示できます。指定されたパケット統計情報と指定のないパケット統計情報は、サポート対象となっている各データ転送レート (1Mbps、2Mbps、5.5Mbps) ごとに表示されます。この統計情報を使用すると、別のデータ転送レートを選択するとアダプタのパフォーマンスを向上させることが可能かどうかを確認できます。このページの値は、リアルタイムで更新されます。統計カウンタをクリアし新しいデータを再収集するには、[Reset Statistics] をクリックします。

Category:

- Adapters
  - Mobile Unit
    - Power Mgmt
    - Known APs
    - Association
    - Tx & Rx**
    - Tx/Rx Graph
  - Diagnostics
  - Logging
  - About WLANInfo

### Tx & Rx

Transmit Statistics:

Total Host Packets:	1578
Non-Directed Packets:	0
@1MB:	0 (0%)
@2MB:	0 (0%)
@5.5MB:	0 (0%)
@11MB:	0 (0%)
Directed Packets:	1128
@1MB:	76 (6%)
@2MB:	45 (3%)
@5.5MB:	453 (40%)
@11MB:	554 (49%)
Total Bytes Transmitted:	77209

Receive Statistics:

Total Host Packets:	7934
Non-Directed Packets:	8913
@1MB:	8913 (100%)
@2MB:	0 (0%)
@5.5MB:	0 (0%)
@11MB:	0 (0%)
Directed Packets:	121
@1MB:	0 (0%)
@2MB:	0 (0%)
@5.5MB:	96 (80%)
@11MB:	65 (53%)
Total Bytes Received:	1257740

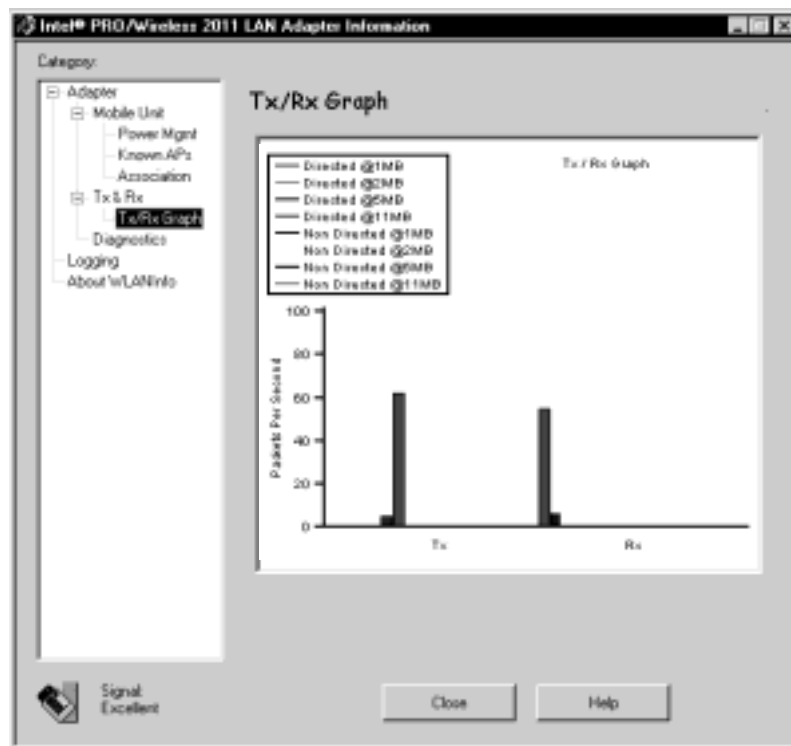
Reset Statistics

Signal: Excellent

Close Help

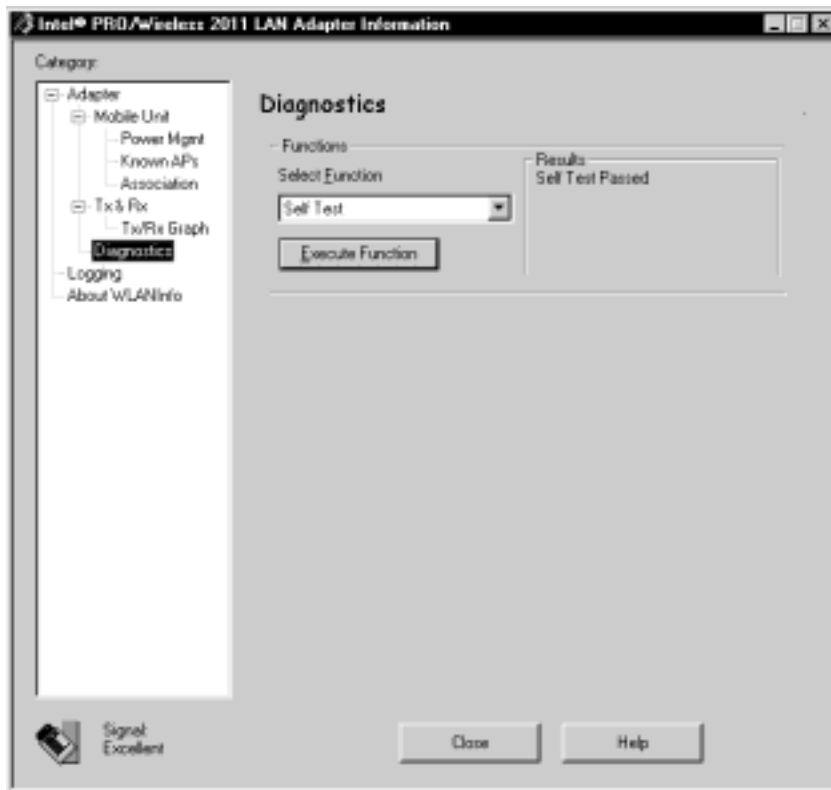
## Transmit and Receive Graph

Tx/Rx (送信と受信) グラフは、アダプタに対して秒単位でのパケットのスループットを表示します。色のついたバーが、指定されたパケットと指定のないパケットのスループットを、サポートされる各データ転送レート (1 Mbps、2 Mbps、5.5 Mbps) ごとに表示します。この統計情報を使用して、異なるデータ転送レートを選択するとアダプタのパフォーマンスを向上させるのかどうかを確認できます。グラフは、毎秒更新されます。



### 3.2.7 Adapter Diagnostics

[Adapter Diagnostics] プロパティ・ページを使用して、アダプタの機能にアクセスするテストを実行できます。ユーザは、[Select Function] プルダウン・メニューの診断メニューを選択して、セルフ・テストを実行したりアダプタをリセットしたりできます。テストを開始するには、[Execute Function] ボタンをクリックします。





### 3.2.8 Logging

[Logging] プロパティ・ページを選択して、WLAN Info のロギング機能を有効か無効かのどちらかにすることができます。WLAN Info では、集めた WLAN アダプタの統計情報をログ・ファイルに保存できます。ログ・ファイルは、HTML フォーマットで保存されます。ユーザが、午前 0 時を過ぎて WLAN Info を実行する場合、そのログ・ファイルは、終了し、次の日用の新しいログ・ファイルが自動的に作成されます。デフォルトのブラウザでログ・ファイルのコンテンツを確認するためには、[View Log Files] をクリックします。





## WLAN Update

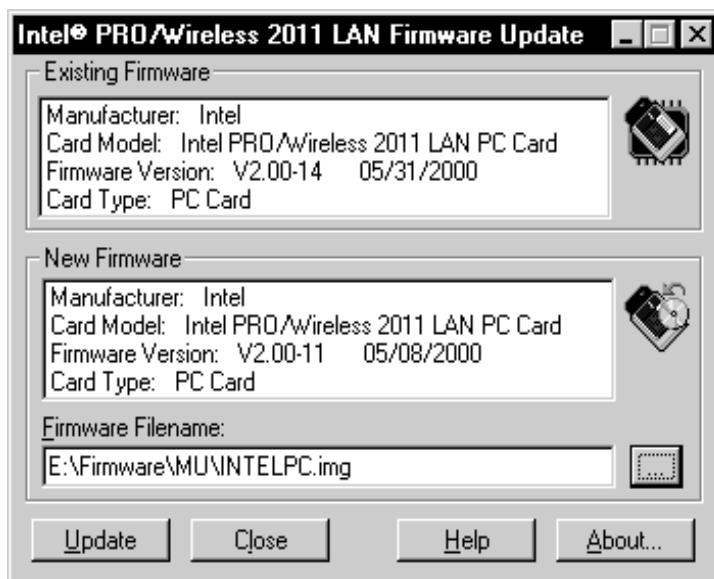
---

Intel は、定期的にあダプタのファームウェアのリリースを行ない、既存のファームウェアに対してパフォーマンスの向上を図っています。WLAN Update ユーティリティを使用すると、Intel<sup>®</sup> PRO/Wireless 2011 LAN アダプタのファームウェアをアップグレードできます。

WLAN Update の手動による起動方法：

1. [スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] を選択します。
2. [Intel Wireless LAN] をクリックして、[Wireless LAN Utilities] を選択します。
3. [WLAN Update] を選択して、ユーティリティを実行してください。

WLAN Update は、システムで使用するアダプタのファームウェア・ファイルを指定して、アダプタのファームウェアをアップグレードします。



WLAN Update は、[Existing Firmware] フィールドに既存のファームウェア情報を表示します。ファームウェア・ファイルを選択して、次に [Update] をクリックしてください。[New Firmware] フィールドに結果が表示されません。

[WLAN Update] ダイアログ・ボックスには、下記のオプションがあります。

Existing Firmware	[Existing Firmware] フィールドでは、ファームウェアの製造業者、モデル番号、ファームウェア・バージョン、およびファームウェアのシリアル番号が表示されます。[Existing Firmware] フィールドは、読み取り専用であり、ユーザ設定できるパラメータはありません。
New Firmware	[New Firmware] ウィンドウを使用して選択されたファームウェア・ファイルのバージョン番号および日付を確認できます。
Firmware Filename	[Firmware Filename] 省略符号 (...) ボタンをクリックすると、アダプタの有効なファームウェア・ファイルをブラウズすることができます。
Update	[Update] プロセスを開始します。開いているアプリケーションを閉じるように画面に警告が現れます。この時点で、ユーザは [Update] プロセスをキャンセルできます。ユーザに [Update] プロセスが開始したことを知らせるメッセージが表示されます。引き続き、[Update] の成否を示すメッセージが表示されます。[Update] が成功した場合、続いて、ユーザにリポートするようにメッセージが表示されます。
Close	[Close] をクリックすると、WLAN Update プログラムを終了できます。
Help	[Help] ボタンをクリックしてください。WLAN Update のヘルプ情報のページが表示されます。

## About

[About] ボタンをクリックすると、WLAN Update のリビジョン・データについてのウィンドウが表示されます。



## Access Point Discovery (AP Discovery)

---

Access Point Discovery (AP Discovery) ユーティリティを使用して、隣接するアクセス・ポイントの属性を確認することができます。アクセス・ポイントを選択し、AP Discovery を使用すると、アクセス・ポイントのシステム名、ESSID、IP アドレス、およびゲートウェイを設定できます。

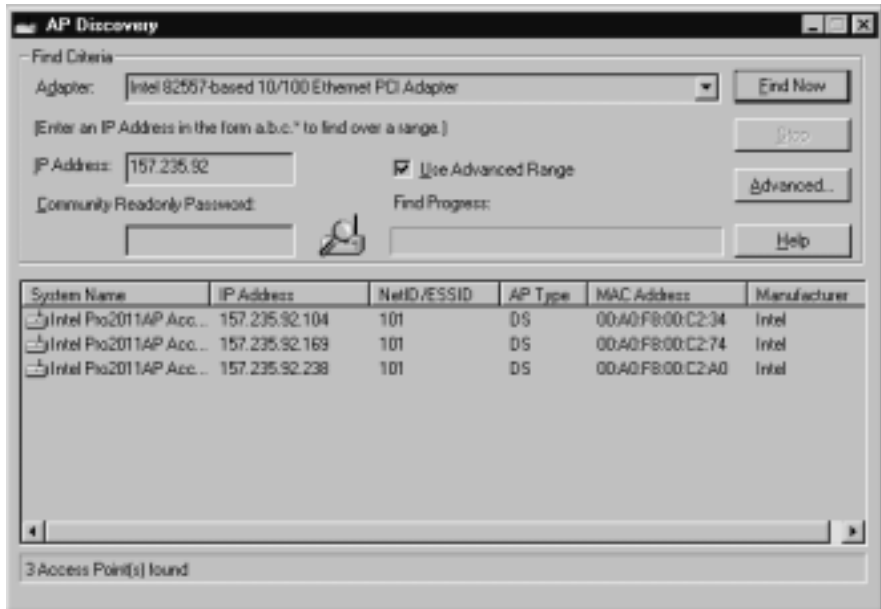
AP Discovery ユーティリティは、アクセス・ポイントの検索条件を選択し検索を行なうのに役立ちます。検索条件に合う複数のアクセス・ポイントが検索されれば、アクセス・ポイントを 1 つずつ選択しその属性の表示が可能です。選択されたアクセス・ポイントの属性はユーザが設定でき、そのアクセス・ポイントを異なる一連のアクセス・ポイントごとにグループ化できます。また、選択されたアクセス・ポイントは、最初には検索されなかったアクセス・ポイントと通信するのに使用することができます。

AP Discovery の起動方法 :

1. [スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] を選択します。
2. [Intel Wireless LAN] をクリックして、[Wireless LAN Utilities] を選択します。
3. [AP Discovery] を選択して、ユーティリティを実行してください。

## 5.1 アクセス・ポイントの検索

ユーティリティを起動すると、[AP Discovery] ダイアログ・ボックスが表示されます。



アクセス・ポイント検索のターゲット MU として使用するワイヤードまたはワイヤレス WLAN のアダプタを選択するには、[Adapter] プルダウン・コンボボックスを使用します。

[IP Address] 編集フィールドで部分的 IP アドレスを入力してください。入力する IP アドレスは、少なくとも 3 つの文字フィールド (157.235.92.) で構成されています。AP Discovery は、入力した部分的 IP アドレスのうち 250 文字を越えない IP アドレスを持つアクセス・ポイントを検索します。部分的 IP アドレスは、ビル内の特定の場所 (小売、販売、製造など) にグループ化されているアクセス・ポイントの IP アドレス範囲に対応していなければなりません。



[IP Address] フィールドで入力された部分的 IP アドレスは、部分的 IP アドレスが表すアクセス・ポイントのグループに関する設定情報に、無許可のユーザがアクセスするのを防ぐため、システム管理者によって作成されたパスワードを備えています。[Community Readonly Password] フィールドでパスワードを入力してください。

[Find Now] ボタンを選択して、AP Discovery が検索したワイヤード・アクセス・ポイントまたはワイヤレス・アクセス・ポイントのデータをそれぞれ表示することができます。[Find Progress] ステータス・バーには、アクセス・ポイントの検索状況が表示され、検索されたアクセス・ポイントの数は、[AP Discovery] ダイアログ・ボックスの左下隅に表示されます。

アクセス・ポイントが検索されたらすぐに、[AP Discovery] ダイアログ・ボックスに、ユーザの割り当てられたシステム名 (そのアクセス・ポイントの名前)、Net ID または ESSID、およびワイヤード・モードで動作するアクセス・ポイントの製造業者が表示されます。

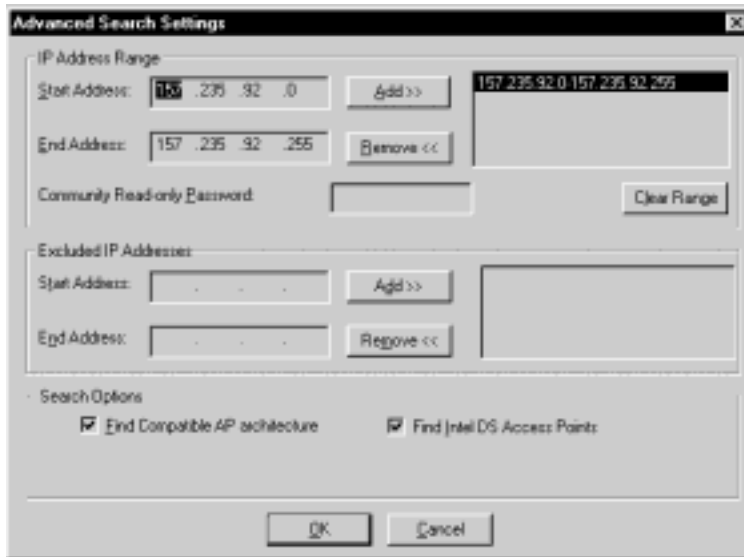
[Advanced] ボタンをクリックして、アクセス・ポイント検索パラメータの特定範囲を指定できます。アドバンスド検索範囲が指定されたら、[Use Advanced Range] チェック・ボックスを選択し [Find Now] ボタンをクリックして、その範囲を使えるようにできます。

### 5.1.1 アドバンスド検索の実行

[AP Discovery] ダイアログ・ボックスの [Advanced] ボタンをクリックすると、[Advanced Search Settings] ダイアログ・ボックスが表示されます。

アクセス・ポイントの IP アドレス検索範囲を設定するためには、[IP Address Range] フィールドを使用します。検索範囲は、ビル内にある販売や製造業の領域内のアクセス・ポイントに限られることも、またビル全体のアクセス・ポイントを広く含むこともあります。この情報は、ビル内にある一定の領域内のアクセス・ポイントに異なる設定が必要であるのかどうかを確かめる際に利用できます。検索範囲をクリアするには、[Clear Range] をクリックします。

IP アドレスの選択された範囲が、再度選択される可能性があれば、それをリストに加えるために、[Add] をクリックします。あるいは、除外されたアクセス・ポイントの IP アドレス範囲をリストから削除するために、[Remove] をクリックします。



[Excluded IP Addresses] フィールドを使用して、IP アドレス範囲を入力し、アクセス・ポイント検索範囲から除外できます。例えば、ビル内の一定の領域（財務、マーケティングなど）内に検索されることがなく、今後設定される可能性もないアクセス・ポイントが存在する場合、そのアクセス・ポイントの IP アドレス範囲は [Excluded IP Addresses] フィールドに入力しなければなりません。

[Add] をクリックすると、IP アドレスの選択された範囲を検索範囲から除外でき、[Remove] をクリックすると、その除外されたアクセス・ポイントの IP アドレス範囲を検索範囲に再び追加できます。

特定のアクセス・ポイントを指定しアクセス・ポイント検索に加えるためには、[Search Options] フィールドを使用します。

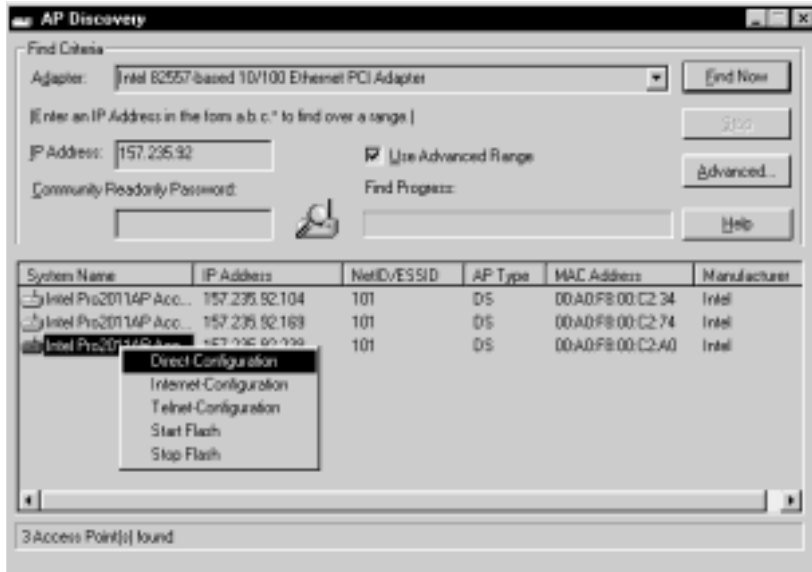


周波数ホッピング・モバイル・ユニットは、ダイレクト・シーケンスを使用するアクセス・ポイントに関連付けることはできません。また、ダイレクト・シーケンスを使用するモバイル・ユニットは、周波数をホッピング・アクセス・ポイントに関連付けることはできません。AP Discovery では、ユーザが検索されたアクセス・ポイントの動作パラメータを設定できますが、周波数ホッピング・モバイル・ユニットにダイレクト・シーケンス・アクセス・ポイントと通信させたり、またはダイレクト・シーケンスを使用するモバイル・ユニットに周波数ホッピング・アクセス・ポイントと通信させたりはできません。

[OK] をクリックすると、[Advanced Search Settings] ダイアログ・ボックスで指定したアクセス・ポイント検索パラメータを保存できます。アドバンスド検索パラメータを使用して検索を行なうには、[AP Discovery] ダイアログ・ボックスで、[Use Advanced Range] チェック・ボックスを選択し [Find Now] をクリックします。

## 5.2 アクセス・ポイントを選択した設定

[AP Discovery] ダイアログ・ボックスに表示されるアクセス・ポイントのリストを使用して、アクセス・ポイントを個々に選択し、設定を行なえます。



アクセス・ポイント上で右クリックすると、アクセス・ポイントの設定メニューについて下記のオプションが表示されます。

- Direct Configuration
- Internet Configuration
- Telnet Configuration
- Start Flash
- Stop Flash

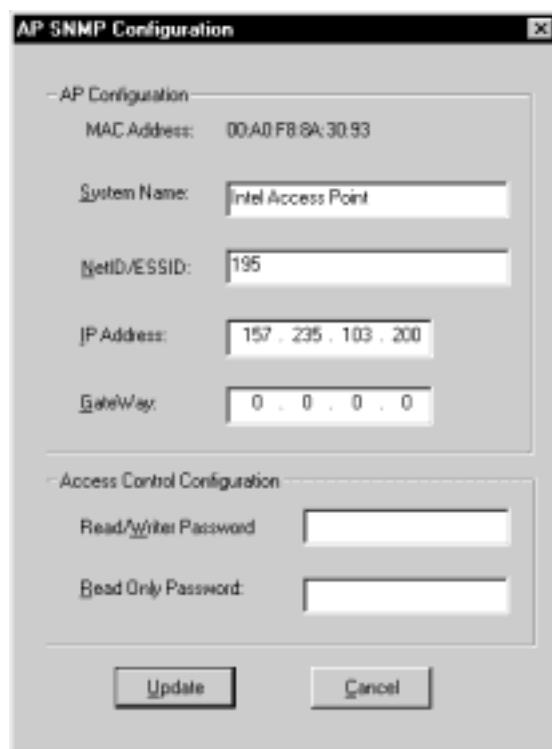
これらのオプションに灰色表示されているものがあれば、そのオプションは、選択されたアクセス・ポイントでは使用できません。

## 5.2.1 Direct Configuration

[Direct Configuration] オプションを使用して、アクセス・ポイントのUI(ユーザ・インタフェース)にアクセスできます。

選択されたアクセス・ポイントが SNMP によって動作している場合、アクセス・ポイント上で右クリックして、[Direct Configuration] を選択すると、[AP SNMP Configuration] ダイアログ・ボックスが表示されます。

[AP SNMP Configuration] ダイアログ・ボックスを使用すると、アクセス・ポイントのシステム名、ESSID (Net ID)、IP アドレスおよびゲートウェイを変更できます。



AP SNMP Configuration

AP Configuration

MAC Address: 00:A0:F8:8A:30:93

System Name: Intel Access Point

NetID/ESSID: 195

IP Address: 157.235.103.200

Gateway: 0.0.0.0

Access Control Configuration

Read/Write Password:

Read Only Password:

Update Cancel



---

[AP SNMP Configuration] ダイアログ・ボックスの [Mac Address] フィールドは読み取り専用であり、変更はできません。

---

アクセス・ポイントの [System name] フィールドを使用すると、アクセス・ポイントに場所（製造業、小売、エンジニアリング）に応じた名前を付けたり、その場所にある別のアクセス・ポイントと区別するための名前を付けたりすることができます。

[NetID/ESSID] フィールドを使用すると、Extended Service Set (ESS) ID を変更したり、アクセス・ポイントにニックネームを付けたりすることができます。ニックネームは、アクセス・ポイントがパーソナル・ワークステーションにある場合などにアクセス・ポイントの場所を示すものとして便利です。

[IP Address] フィールドを使用して、アクセス・ポイントの IP アドレスを変更してそのアクセス・ポイントを別の一連のアクセス・ポイントとグループ化したり、領域内で動作する他のデバイスと競合するような IP アドレスを変更したりできます。

アクセス・ポイントがゲートウェイ・アドレスを必要とする別のネットワーク・セグメントに発信しようとする場合、[Gateway] フィールドにアドレスを入力してください。

[AP SNMP Configuration] ダイアログ・ボックスの [Access Control Configuration] セクションには、管理者やユーザの特権パスワードを確認するための 2 つのフィールドがあります。これらのパスワードは、アクセス・ポイントの [System Configuration] 画面と [Change System Parameter] 画面で割り当てられます。アクセス・ポイントの読み取りと書き込み特権パスワードを入力するには、[Read/Writer Password] フィールドを使用します。このパスワードは、アクセス・ポイント設定が変更された場合に必要となります。アクセス・ポイントの読み取り特権パスワードを入力するには、[Read Only Password] フィールドを使用します。アクセス・ポイント設定に変更箇所がない場合、この 2 つのパスワード・フィールドには何も入力されません。

[Update] をクリックして、アクセス・ポイント設定の変更を行なえます。アクセス・ポイント設定が変更されれば、[Confirm AP Password] ダイアログ・ボックスが表示されます。



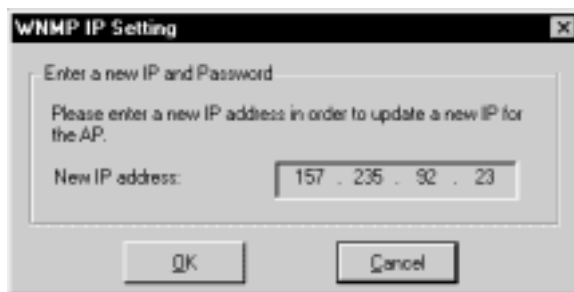
パスワードを入力し [OK] をクリックすると、[AP SNMP Configuration] ダイアログ・ボックスに変更を加えられます。



Note

システム / ユーザ・パスワードは、大文字と小文字が区別され、32 文字以下になります。

[AP Discovery] ダイアログ・ボックスで直接設定として選択されたアクセス・ポイントが、WNMP によって動作している場合は、[WNMP IP Setting] ダイアログ・ボックスが表示されます。



[New IP address] フィールドを使用して、アクセス・ポイントの IP アドレスを変更しそのアクセス・ポイントを別の一連のアクセス・ポイントとグループ化したり、その領域内で動作する他のデバイスと競合するような IP アドレスを変更したりできます。新しいアクセス・ポイントの IP アドレスをインプリメントするには、[OK] をクリックします。アクセス・ポイントが、WNMP によって動作している場合、それ以外のアクセス・ポイント・パラメータは AP Discovery を使用して設定はできません。

## 5.2.2 Internet Configuration

[Internet Configuration] オプションを使用して、アクセス・ポイントの UI に Web ブラウザでアクセスができます。

アクセス・ポイント上で右クリックし [Internet Configuration] を選択すると (有効である場合)、[Access Point Configuration Management System] ページが表示されます。





このページの左のフレームにあるノードを使用して、別のページにアクセスします。Web ページのナビゲーション、ページ・コンテンツおよびパラメータ使用については、オンライン・ヘルプ・ファイルを参照してください。([Help] ボタンは、ページの左上隅にあります。)

### 5.2.3 Telnet Configuration

[Telnet Configuration] オプションを使用して、アクセス・ポイントの UI にダイヤルアップ接続によってアクセスができます。

アクセス・ポイント上で右クリックし [Telnet Configuration] を選択すると (有効である場合)、[Telnet login password] 画面が表示されます。Telnet のログイン・パスワードを大文字と小文字を区別して入力します。

ESC キーを押せば、アクセス・ポイントのメイン・メニューが表示されます。[main menu] オプションを使用して統計情報を確認し、アクセス・ポイントのシステム設定を行なえます。

### 5.2.4 アクセス・ポイントの点滅

アクセス・ポイント上で右クリックし [Start Flash] を選択して、選択されたアクセス・ポイントの LED を点滅させます。[Start Flash] 機能を使用すると、アクセス・ポイントを検索し、アクセス・ポイントがサポートするモバイル・ユニットの位置が適切かどうかを確認できます。[Stop Flash] を選択すると、アクセス・ポイントの LED は点滅が停止し通常の動作状態に戻ります。



[Start Flash] 機能は、1 度に 1 つのアクセス・ポイント上でのみ使用できません。

---



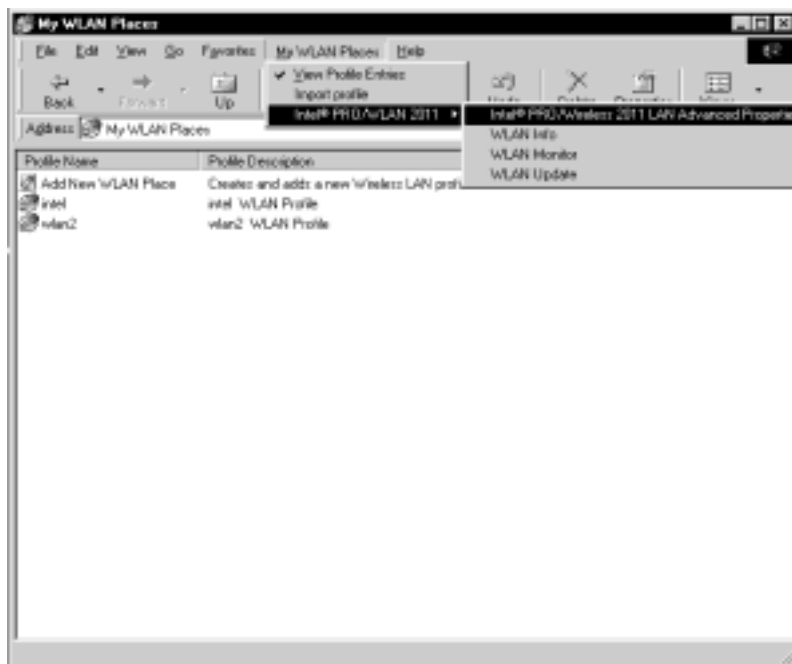
## My Wireless LAN Places

---

My Wireless LAN Places (My WLAN Places) ユーティリティを使用して、WLAN アダプタのネットワーク・アドレス情報およびデバイス情報のプロファイルを作成することができます。このプロファイルは、選択された WLAN アダプタにシステム管理者の手でダウンロードができます。

完了したプロファイルは、異なる場所で MU が Intel® PRO/Wireless 2011 LAN に接続できるように、WLAN アダプタの一連の動作設定として使用します。作成された WLAN プロファイルは、[My WLAN Places プログラム] ウィンドウに表示され、職場やホーム・オフィス環境全体に存在するさまざまなネットワークにおいて必要に応じて使用されます。

My WLAN Places ユーティリティを使用して WLAN アダプタ用の設定を確認するためには、[My WLAN Places] プルダウン・メニューを使用して、必要に応じて 1 つまたはすべての Wireless LAN ユーティリティを選択します。





NCPA と WLAN Monitor の設定値は、My WLAN Places の設定値に優先します。My WLAN Places で別の設定は行わないでください。

---

WLAN Places の起動方法：

1. Windows のデスクトップから [マイ コンピュータ] をダブルクリックします。
2. 表示されているアイコンのグループから [My WLAN Places] アイコンを選択します。

[My WLAN Places] プログラム・ウィンドウが表示されます。



3. このプログラム・ウィンドウを使用して、新しいプロファイルを作成したり、既存のプロファイルの属性を編集することができます。

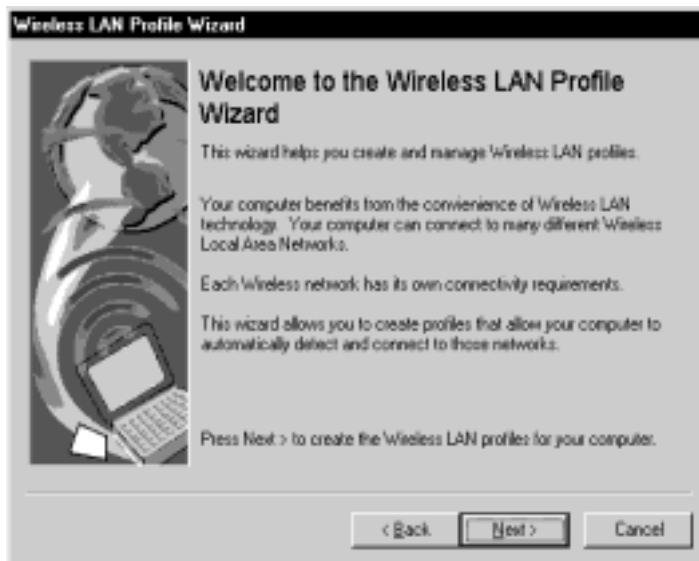
## 6.1 新しいプロファイルの作成

WLAN アダプタのプロファイルは、選択された WLAN アダプタにシステム管理者の手でダウンロードされてアクセス・ポイントの受信可能領域をサポートする固有のネットワーク・アドレス情報およびデバイス情報のことです。

新しいプロファイルの作成方法：

1. [My WLAN Places] プログラム・ウィンドウから [Add New WLAN Place] を選択してください。

[Welcome] ダイアログ・ボックスが表示されます。



2. [Welcome] ダイアログ・ボックスで [Next] をクリックしてください。

[Wireless LAN Profile Wizard-Create] ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. [Profile name] フィールドで新しいプロファイル名を入力してください。  
プロファイル名は、128 文字までで、任意の印刷可能な文字が使用できます。
4. [Profile description] フィールドでプロファイルの説明を入力してください。  
プロファイルの説明があれば、プロファイルの付加的な情報が得られるので、短いプロファイル名で済ませることができます。
5. [Next] をクリックするとプロファイルの作成を続行し、[Back] をクリックすると [Welcome] ダイアログ・ボックスの画面に戻ります。また、[Cancel] をクリックするとプロファイル・ウィザードを終了し新しいプロファイルの作成をキャンセルできます。

[Next] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard-ESSID] ダイアログ・ボックスが表示されます。



6. [ESSID] フィールドで ESSID を入力してください。

プロファイルの ESSID は、プロファイルがインストールされると MU がサポートすることになるアクセス・ポイントの ESSID と同じでなければなりません。ESSID は、0 ~ 32 文字です。

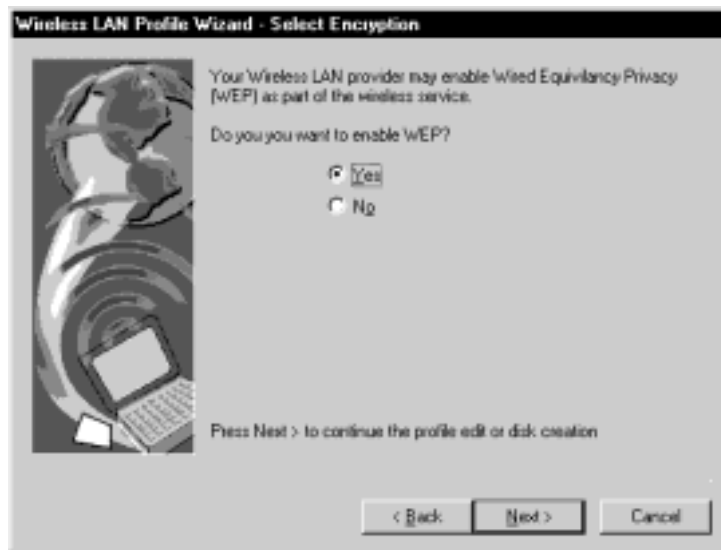


Note

ESSID が特定できなければ、デフォルトの ESSID 値として 101 を使用することができます。

7. [Next] をクリックするとプロファイルの作成を続行し、[Back] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard-Create] ダイアログ・ボックスの画面に戻ります。また、[Cancel] をクリックするとプロファイル・ウィザードを終了し、新しいプロファイルの作成をキャンセルできます。

[Next] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard-Select Encryption] ダイアログ・ボックスが表示されます。



[Wireless LAN Profile Wizard-Select Encryption] ダイアログ・ボックスでは、ユーザはターゲット WLAN アダプタに Wireless Equivalency Privacy (WEP) を使用するかどうかの選択を求められます。ワイヤレス・リンクは、物理的に接続されていないため情報を盗まれる可能性が高くなります。WEP は、データが盗まれるのを防ぎ、セキュリティを高めるのに効果的なメソッドです。

8. [Yes] を選択すると、[Wireless LAN Profile Wizard-Encryption] ダイアログ・ボックスが表示されます。[No] を選択すると、アクセス・ポイントと MU 間で送信されるデータは暗号化されません。
9. [Next] をクリックするとプロファイルの作成を続行し、[Back] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard-ESSID] ダイアログ・ボックスの画面に戻ります。また、[Cancel] をクリックするとプロファイル・ウィザードを終了し、新しいプロファイルの作成をキャンセルできます。



[Yes] を選択し [Next] をクリックすると、[Wireless LAN Profile Wizard-Encryption] ダイアログ・ボックスが表示されます。[No] を選択し [Next] をクリックすると、[Wireless LAN Profile Wizard-Password] ダイアログ・ボックスが表示されます。



10. [Encryption Algorithm] プルダウン・メニューを使用して、プロフィールで使用される [40-bit Encryption algorithm] か、または [128-bit Encryption algorithm] を選択します。

[40-bit Encryption] を選択すると、ユーザは、10 個の 16 進数でパスワードを入力する必要があります。パスワードは、10 個の 16 進数を暗号化キーごとにある 2 つのフィールドにまたがって入力できます。



Note

[128-bit Encryption] は、エクスポートの制限を受けています。[128-bit Encryption] を有効にするために、[NCPA Encryption] プロパティ・ページでアクセス・コードを要求される場合があります。My Wireless LAN Places で暗号化を 128 ビットに設定する前に NCPA で [128-bit Encryption] が有効であることを確認してください。

[128-bit Encryption] を選択すると、ユーザは、26 個の 16 進数でパスワードを入力する必要があります。パスワードは、10 個の 26 進数を暗号化キーごとにある 6 つのフィールドにまたがって入力できます。

[Open System] を選択すると、データ・パケットは、アクセス・ポイントと MU 間を暗号化されずに送信されます。

11. [Next] をクリックするとプロファイルの作成を続行し、[Back] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard-Select Encryption] ダイアログ・ボックスの画面に戻ります。また、[Cancel] をクリックするとプロファイル・ウィザードを終了し、新しいプロファイルの作成をキャンセルできます。

[Next] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard-Password] ダイアログ・ボックスが表示されます。[Wireless LAN Profile Wizard-Password] ダイアログ・ボックスでは、ユーザはプロファイル内のデータを保護するために、パスワードを作成するかどうかの選択が可能です。



12. [Yes] をクリックすると、プロファイルのパスワードを作成できます。[No] をクリックすると、プロファイルにパスワードは必要とされません。

パスワードが必要でなければ、[Next] をクリックして、プロファイルの作成を完了してください。

13. [Password] フィールドでパスワードを入力してください。
14. [Confirm Password] フィールドで同一のパスワードを入力してください。
15. [Next] をクリックするとプロファイルの作成を続行し、[Back] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard- Encryption] ダイアログ・ボックスの画面に戻ります。また、[Cancel] をクリックするとプロファイル・ウィザードを終了し新しいプロファイルの作成をキャンセルできます。

[Next] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard-Profile Complete] ダイアログ・ボックスが表示されます。



16. [Yes] を選択すると、コンピュータをリブートし、プロファイルの作成プロセスを完了できます。

[Finish] をクリックすると、コンピュータを再起動させて新しいプロファイルをインプリメントし、[Back] をクリックすると [Wireless LAN Profile Wizard- Password] ダイアログ・ボックスの画面に戻ります。また、[Cancel] をクリックするとプロファイル・ウィザードを終了し新しいプロファイルの作成をキャンセルできます。

## 6.2 既存のプロファイルでの作業

既存の WLAN プロファイルは、WLAN Places ユーティリティを使用して、編集したり、名前を変更したり、削除したりします。

### 6.2.1 既存のプロファイルの編集

WLAN アダプタのプロファイルは、[Wireless LAN Profile] ダイアログ・ボックスからプロパティ・ページを選択して編集ができます。

既存のプロファイルの編集方法：

1. [My WLAN Places] プログラム・ウィンドウで編集するプロファイルを選択します。

プロファイルのパスワードが作成されていれば、[Enter Password] ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. プロファイルに割り当てられたパスワードを入力し [OK] をクリックします。

[Wireless LAN Profile Properties] ダイアログ・ボックスの [General] プロパティ・ページが表示されます。



3. 必要に応じて、[Profile name]、[Profile description]、[ESSID] の各フィールドを編集します。
4. 必要に応じて、[Encryption] と [Password] のプロパティ・ページでプロファイル設定を編集します。
5. [OK] をクリックして、プロファイルの変更を保存します。[Close] をクリックして、終了してください。

### 6.2.2 既存のプロファイルの削除または名前の変更

同一ファイル名を持つプロファイルは存在できません。既存のプロファイルの削除または、名前の変更を行なう必要があります。

既存のプロファイルの削除または名前の変更：

1. [My WLAN Places] プログラム・ウィンドウで目的のプロファイルを選択します。

2. プロファイル上で右クリックし、プロファイル設定オプションのプルダウン・メニューを表示させます。



3. [Rename Profile] を選択し新しいプロファイル名を入力します。  
プロファイルを削除する場合は、プルダウン・メニューから [Delete Profile] を選択します。



---

削除された WLAN アダプタのプロファイルは、[Recycle Bin] には入らず、再度読みとりはできません。

---

## 付録 A      カスタマ・サポート

---

### A.1 インテル自動サポート・システム

インテル Web サイトでは、毎日 24 時間無料で自動サポート・システムをご利用できます。同サービスでは、インテル製品の最新情報を提供しています。インストール手順、トラブルシューティング情報、一般的な製品情報が入手できます。

#### インストレーション CD-ROM に収録されている追加資料

ドライバのインストール手順やその他の障害に対するトラブルシューティングの手順については、オンライン・マニュアルを参照してください。オンライン・マニュアルを見るときは、ドライブにインストレーション CD を挿入し、自動実行画面が表示されると、各種マニュアルの一覧が表示されます。目的のリンクをクリックしてマニュアルを表示します。PDF ファイルの閲覧には Adobe Acrobat が必要です。Adobe Acrobat( 英語版 ) はインストレーション CD の Acrobat フォルダに収録されています。日本語版 Acrobat をご使用される際には、アドビシステムズ株式会社様の Web ページ等からダウンロードしてください。また、日本語版の各種マニュアルは弊社 Web ページよりダウンロードしてご参照ください。

#### Web とインターネット・サイト

- サポート・サイト : <http://support.intel.co.jp/>
- 自動サポート・システム : <http://support.intel.co.jp/jp/support/contact.html>
- ネットワーク製品 : <http://www.intel.co.jp/jp/network/>
- インテル・ホームページ : <http://www.intel.co.jp/>

#### インテル・ホットライン・サービス

( 土日、祝祭日および年末年始を除く、9:00 から 17:00 まで )

TEL 0120-868686

FAX 0298-47-7806

インテルは世界各地に技術サポート・センターを持っています。同センターの多くには、現地の言葉話せる技術者が配置されています。インテル・サポート・センター、電話番号、営業時間をすべて列挙した一覧をご覧になりたいときは、<http://www.intel.com/support/9089.htm> にアクセスしてください。

## A.2 ソフトウェア使用許諾契約

**重要** - ソフトウェアをコピー、インストール、使用する前にお読みください。

本契約の条件を注意深くお読みください。本ソフトウェアまたはそのパッケージを開封した場合、ダウンロード、またはコピーした場合、お客様は本契約の条件に同意したものとみなされます。以下をよく読み、本契約の条件に同意するまで、本ソフトウェアをご利用にならないでください。同意されない場合は、本ソフトウェアをインストールまたは使用しないでください。

**使用許諾。** お客様は、業務目的ではなく個人で使用するコンピュータ1台に本ソフトウェアをコピーすることができます。また、以下の条件に従う場合に限り、本ソフトウェアのバックアップ・コピーを一部作成することができます。

本ソフトウェアは、インテル・コンポーネント製品と共に使用する場合に限り、ライセンスが交付されます。インテル以外の製品と共に使用する場合は、ライセンスが交付されません。

当契約で指示のある個所を除き、本ソフトウェアのいかなる部分もコピー、変更、貸し出し、販売、配布、譲渡することはできません。お客様は、本ソフトウェアを許可なくコピーすることができないことに同意しているものとします。

お客様は、本ソフトウェアをリバース・エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすることはできません。

お客様は、本ソフトウェアの複数ユーザによる同時使用をサブライセンスまたは許可することはできません。



本ソフトウェアには、サード・パーティ製のソフトウェアまたはその他の資産が含まれている場合があります。そのいくつかは、同梱された "license.txt" ファイル、または他のテキストやファイルなどに従って、識別およびライセンスされることがあります。

ソフトウェアの所有権と著作権。本ソフトウェアのコピーのすべてのタイトルは、インテルまたはその提供者が所有します。本ソフトウェアは、米国およびその他の国の法律、ならびに国際契約規定により、著作権の取得と保護が行われています。お客様は、ソフトウェアから著作権通告を除去することはできません。インテルはいつでも予告することなく、本ソフトウェアまたはその中で参照されている情報を変更することがあります。ただし、本ソフトウェアをサポートまたは更新する責任を負わないものとします。特に明示的に指定された個所を除き、インテルの特許、著作権、登録商標等の知的所有権に関する明示的または黙示的な権利を、インテルは一切譲渡することはありません。本ソフトウェアを譲渡するには、受取人がこれらの条件に完全に従い、かつお客様が本ソフトウェアのコピーを一部たりとも所有していないという条件が必要です。

媒体の限定保証。インテルは、本ソフトウェアを物理メディア上に記録して配布する場合、お届け後 90 日間はメディアに物理的な欠陥が生じないことを保証します。万一欠陥が見つかった場合は、そのメディアをインテルにご返送ください。インテルの選択により、本ソフトウェアを交換、または代替配送いたします。

他の保証の除外。上記に記述された事項を除き、本ソフトウェアは "現状のまま" 提供されます。商品性の保証、合法性の保証、および特定目的適合性の保証を含む他のすべての明示または黙示の保証が行われることはありません。

インテルは、本ソフトウェアに含まれるすべての情報、テキスト、グラフィック、リンク、またはその他の情報の正確性や完全性について、その責任を保証したり、あるいは引き受けたりすることはありません。

責任の制限。本ソフトウェアを使用または使用できないことから生じるすべての損害（制限の範囲を越えた、利益の損失、事業の中断、あるいは情報の損失を含む）において、インテルまたはその提供者は、どのような場合であっても、その責任を負いません。また、当社がかかる損害の可能性につき事前通知を受けていたか否かも問わないものとします。地域によっ

ては、黙示保証、間接的な損失、または偶発的な損失の責任を除外または制限することを禁じているところがあります。したがって、上記の制限は、お客様には適用されない場合があります。お客様には、地域ごとに異なる他の法的な権利がある場合もあります。

契約の終了。お客様が契約条件に違反した場合には、インテルはこの契約をいつでも終了することができます。終了の際、お客様は直ちに本ソフトウェアを破棄するか、またはそのコピーのすべてをインテルに返却しなければなりません。

準拠法。本合意書から生じる請求には、カリフォルニア州の法律を適用するものとしませんが、同法域における州際私法の原則、および物品売買契約に関する国連条約は共に適用されません。適用される輸出法および規制に違反して本ソフトウェアを輸出することはできません。インテルは、インテルの授権代表者の署名した書面による合意書以外の合意書に従う義務を負いません。

米国政府に対する制限付き権利。本ソフトウェアは、「制限付き権利」と共に提供されるものです。米国政府は、本ソフトウェアの使用、複製、開示のいずれかを行う場合も、FAR52.227-14 ならびに DFAR252.227-7013 およびその後続規定もしくはその承継規定に定められている制限に従う必要があります。米国政府が本ソフトウェアを使用した場合、それは、本文書におけるインテルの所有権を承認したのと同じこととなります。契約当事者または製造者はインテル・コーポレーション（郵便番号 95052、カリフォルニア州サンタクララ、ミッションカレッジ大通り 2200 番地）です。

## A.3 制限付きハードウェア保証

インテルでは、本製品の元の所有者に対して、本パッケージで納入されたアダプタ製品の部品と製造工程に起因する欠陥について保証いたします。ただし、装置の設置中の損傷については、この保証の対象になりません。製品を購入した会社に設置を依頼することをお勧めします。

製品の保証は上記のみに限らせていただきます。知的所有権の侵害がないこと、商用性、特定目的への適合性、または何らかの提唱、仕様、見本などから生じる保証を含む、すべての明示保証、黙認保証、または法律による保証など、その他一切の保証はいたしかねます。

この保証には、酷使、事故、誤使用、不注意、改造、修理、災害、不適當な設置、または不適當な試験によって損傷したアダプタ製品の交換は含まれません。本アダプタ製品に瑕疵の見つかった場合、インテルは、以下に定める場合を除き、弊社の選択で、無料で本アダプタ製品を交換もしくは修理をするか、購入代金を払い戻しをします。その場合は、RMA (Return Material Authorization) 番号 (下記参照) を明記のうえ、未登録の場合は購入証明書を付けて、購入元の販売店宛、またはインテル宛に、瑕疵についての説明書と共にご返送ください。アダプタ製品を返送される場合、輸送中の損傷や紛失はお客様の責任となります。元の輸送箱 (または同等品) をご使用ください。輸送料はお客様の負担となります。

インテルでは、新品、修理したアダプタ製品、新しい部品、または修理した部品を使用して、アダプタ製品の交換または修理を行います。返送された製品はインテルの所有物となります。修理または交換されたアダプタ製品は、インテルの選択で、受領した時と同じかそれ以上かの改良段階でお返しいたします。インテルは、生産の中止されたアダプタ製品を、現行の同等のアダプタ製品と交換する権利を保有しています。

## 故障した製品の返送 (RMA)

北米地域の場合：

製品を返送する前に、インテル・カスタマ・サポートに連絡して、RMA 番号を取得してください。

連絡先：+1916-377-7000

カスタマ・サポート・グループは、アダプタ製品の故障が確認された場合、RMA 部門に RMA 番号を発行させます。この番号を、製品の外装パッケージに明記してください。パッケージに RMA 番号が明記されていない場合、インテルは返品をお受けできません。

その他の地域の場合：

払戻金または交換を要求される場合は、購入元に本アダプタ製品を御返送ください。

インテル・アダプタ返金保証 (北米のみ)

インテルは、インテルのアダプタ製品をご購入いただいたお客様が心より満足できることを望んでいます。購入後 90 日以内であれば、購入元にアダプタ製品を返却して、購入元から購入代金を全額払い戻すことができます。返品を受け付け、お客様に代金を払い戻す再販売業者および販売代理店はそれぞれ、購入元にインテルのアダプタ製品を戻すことができます。インテルは、この方針に従って返品を受け付け、インテルから直接ご購入いただいたお客様に対し、元の購入代金を払い戻すことを保証します。

### 責任および救済の制限

ここに定めるインテルの単独責任は、直接的かつ客観的に測定可能な損害に限定されるものとします。インテルは、いかなる場合であろうと、先に示した間接的損害、付随的損害、特別損害などを含む、間接的もしくは推測に過ぎない損害に対し、あらかじめインテルがそのような損害の発生する可能性について通知を受けていようとまいとに関係なく、そのような損害の原因が契約上の過失にあると、不法行為にあると、保証書に従ったものであろうと、知的所有権の侵害、再調達費用、使用機会の喪失、営業中断、信用の失墜、収益の損失、およびその他を含め、一切の責任を負わないものとします。上記にかかわらず、この契約の下でのすべてのクレームに対するインテルの全責任は、製品の購入代金の補償に限られます。これらの責任の制限は、製品価格の決定の基本的な要素になっています。インテルおよびその代理店では、その他の責任を一切負いかねます。

州によっては、結果的または付随的な損害に対する責任の除外または制限が禁じられているため、上記の制限がお客様に適用されないこともあります。

**重大な制御アプリケーション：**インテルは、重大な制御アプリケーション（例えば、安全または医療用制御システム、原子力エネルギー制御システム、あるいは航空または地上交通制御システムなど）における、ライセンス取得者または 2 次ライセンス取得者による本アダプタ製品の使用については、特に責任を負いかねます。このようなアプリケーションでの使用については、すべてユーザの責任となります。ライセンス取得者は、ライセンス取得者および 2 次ライセンス取得者がこのようなアプリケーションに本アダプタ製品を使用することから生じるすべてのクレームに対して、インテルを免責することに同意するものとします。

ソフトウェア：本アダプタ製品に付属のソフトウェアは、上記のハードウェア保証の対象となりません。ソフトウェア保証についての詳細は、本アダプタ製品に同梱されているソフトウェア・ライセンス契約書を参照してください。



## 無線周波妨害に対する要件

本装置は、試験の結果、米国連邦通信委員会 (Federal Communications Commissions) 規則・規制パート 15 のクラス B デジタル機器に関する規制値に準拠していることがわかっています。これらの規制値は、有害な干渉から十分に本装置を保護し、商用環境でも稼働できるようにするためのです。本装置は、無線周波数エネルギーを生成、使用するだけでなく、放射する能力も持っているため、取付作業を行うときや使用する場合は、付属の説明書に従わないと、無線通信に有害な干渉を引き起こすおそれがあります。居住地域で本装置を稼働すると、有害な干渉を引き起こす可能性があります。場合によっては、使用者自身の費用でその干渉を取り除く必要があります。

ただし、どのような状態で使用すれば干渉の発生が抑えられるかは、はっきりとはわかりません。本装置の電源のオン / オフを行うと、干渉しているかどうかわかります。ラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしていることが確かな場合は、次に示した手段により、その干渉を取り除いてみてください。

- 受信アンテナの向き、位置を変える
- 本装置と受信装置との距離を離す
- 受信装置の接続されているコンセントとは別回路のコンセントに本装置を接続する
- 購入店やラジオ / テレビ技術者に相談する

## 無線周波妨害に対する要件 - カナダ

クラス B デジタル機器である本装置は、カナダの ICES-003 に適合しています。

CE マークと欧州連合格格に適合



欧州連合内での販売を目的とした製品には、以下に述べるように、適用される指令と欧州規格 (European Normes、EN) とに適合していることを示す CE マークが付与されます。次のような指令や EN の修正が含まれています。

### 適用される指令

- 電磁界適合性指令 89/336/EEC
- 低電圧指令 73/23/EEC

### 適用される規格

- EN 55 022 - 情報技術機器の電波干渉特性の測定方法と限度値
- EN 50 082-1 - 1997 電磁界適合性 - 共通イミュニティ規格パート 1：居住、商業、軽工業
- EN61000-4-2 - 生産工程の計量・制御機器に関する電磁界適合性パート 2：静電気放電に対する要件
- EN61000-4-3 - 生産工程の計量・制御機器に関する電磁界適合性パート 3：放射電磁界に対する要件
- EN61000-4-4 - 生産工程の計量・制御機器に関する電磁界適合性パート 4：短時間電気過渡現象に対する要件
- EN61000-5,-6,-11
- EN 60 950 (修正 1、修正 2 を反映) - 電子事務機器をはじめとする情報技術機器の安全性

## RF 装置

インテルの RF 装置は、販売先の地域における規則と規制とに適合するよう設計されており、必要に応じてラベルが貼られます。インテルの RF 装置の大半は、型式承認を受けているため、ライセンスまたは認可を得なくても使用できます。インテルが明示的に承認していない変更または改良をインテル製の装置に加えると、その装置を使用する権限の無効になることがあります。